

宗門総合振興計画

Vol.12

宗門総合振興計画『基本方針Ⅲ 宗門の基盤づくり』の中で、「持続可能な寺院のあり方を検討、運用」する先駆的取り組みとして、宗門関係学校である龍谷大学との「宗学連携」から、「寺院を拠点としたインターンシップ」を実施し、地域・寺おこしのモデル事業を推進しています。

本年度は「寺院を拠点としたインターンシップ」として、「龍谷大学農学部インターンシップ」（正課科目）に加え、「お寺 de 農業インターンシップ」（宗派主催）を実施することができました。主に夏休みを中心とする、7月14日～9月11日の期間に、茨城、山梨、滋賀、京都、奈良、島根、広島県の9カ寺が合計14名の学生を受け入れました。

特に、「お寺 de 農業インターンシップ」の受け入れ寺院（滋賀県愛知郡愛荘町・寶幢寺、京都府与謝郡与謝野町・浄福寺、島根県浜田市・西方寺）からは、地域情報誌（農協等）に「地元の話題」として取り上げられたなど、後日「反響があった旨」ご報告をいただいております。

先日、受け入れをいただきました寺院
ご住職へアンケートを行ったところ、概
ね次のようにご回答をいただきました。

○受け入れに不安であったが、門徒や総
代の協力があり、より付き合いが深ま
った。住職、寺族のおもてなしを含め
たスタッフ力の向上につながった。

○学生は大変礼儀正しく、熱心に取り組
み、皆様にも好評だった。

○受け入れ門徒は、学生へ仕事を伝える
ことに大きな喜びを感じていた。

○交流会では、学生だけでなく門徒同士
が意見交換をする場ともなり、有意義
であった。

○役場の農林課、民間地域活性団体など

の協力も得て、新たな知見やヒントを得ることができた。

○地域や集落内経済の循環がないことが、過疎につながることに、また農林業後継者の不足が深刻であることがよくわかった。

○地域やお寺の現状を見直し、誇れるものは何か、強みや弱みは何か、さらには持続可能な集落、お寺を考える上で、大変貴重な機会となった。次年度も受け入れたい。

このたびは、「龍谷大学農学部インターンシップ」担当の佐藤龍子教授より「農学部インターンシップ」の主旨やお寺の役割、今後の展開について寄稿いただきました。来年度の募集につきましては、12頁より掲載をいたしております。

龍谷大学農学部インターンシップにおける

寺院の役割と今後について

龍谷大学 農学部 食料農業システム学科 教授

佐藤 龍子^{りゅうこ}

農学部インターンシップの概要

2015年4月に農学部が新設され、今年で3年目を迎えます。農学部インターンシップは2年目の2016年度から実施しています。主に2年生が対象です。2016年度は39名、2017年度44名の学生が参加しました。1学年約40名ですので、1割ほどの学生が参加していることとなります。

農学部インターンシップは、実習2週間・2単位、1週間・1単位の正課科目です。正課の科目ですから、以下のよう

な手順で厳格に行われています。募集がイダンス↓申請書提出↓書類選考と実習先マッチング↓事前学習90分×2コマ↓実習（1〜2週間）・日報を作成↓事後学習90分×2コマ↓報告会（パワーポイントで発表）↓レポート提出。成績は素点で各自につけます。報告会の前に、学生たちは班で集まってパワーポイント作成の作業をします。座学の1単位・2単位に比べ、学生の負担は大きい科目といえるでしょう。しかし、参加希望の学生は多く、マッチングの結果行けない学生もいます。



島根県・浜田市

農学部インターンシップにおける

寺院の役割

このうち寺院への参加は、2017年

度6カ寺、7名（山梨県甲州市 萬福寺
1、茨城県ひたちなか市 専光寺1、滋賀
県彦根市 證大寺1、奈良県宇陀市 正定寺
2、奈良県吉野郡天川村 光遍寺1、広島
県三次市 東光坊1）、2016年5カ寺、
7名（山梨県甲州市 萬福寺2、滋賀県彦
根市 證大寺1、奈良県吉野郡天川村 光遍

寺2、広島県三次市 東光坊1、島根県大田市 浄土寺1）です。寺院や門徒宅に泊まり、地域に密着した産業や農業・林業・畜産業等さまざまなことが経験できることから、学生に人気があります。参加学生は地域の中核である寺院の役割や地域コミュニティを体感し、過疎地の課題を考えるようになります。お寺を身近に感じ、シンパシーを醸成し、感謝の気持ちを持って帰ってきました。座学の仏教でなく、現代に生きる寺院と仏教に触れ、成長して大学に戻ってきます。企業・団体等のインターンシップとは異なる効果があると思います。

さて、そもそも大学に



奈良県・天川村

におけるインターンシップは「大学等における学修と社会での経験を結びつけることとで、学生の大学等における学修の深化や新たな学習意欲の喚起につながる」ともに、学生が自己の職業適性や将来について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成が図られる有益な取組」（文部科学省、2015）です。この趣旨から鑑みると、僧侶養成のインターンシップではありませんので、「お寺 de フィールドラーニング」という方が適切かもしれません。

今後について

今後はインターンシップとして継続しつつも、より適切で新しい形態として寺院でのPBL (Project Based learning) 型授業を検討しています。PBLとは、学生が課題を見つけ、チームで課題解決を考え、解決策を提案(実施)する学びです。この方法で「寺院が地域社会と学生をつなぐプラットフォームになり、地域活性化の中心的役割を担っていくこ

とができる」(玉井、2016)可能性が高まるでしょう。

龍谷大学の強みと農学部生の持つさまざまな資産や資質を生かし、過疎地の寺院とコラボすることで、学生と地域が元気になる仕組みを考えています。

社会も大学も大きな変貌をとげています。大学内だけで教育が完結する時代ではありませ



奈良県・天川村

ん。大学教

育に寺院や地域の方々のお力が必要です。地域の資産を学生の成長につなげていただけますよう、今後ともご協力とご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

※ ※ ※



事後学習

私の出身は山形県鶴岡市です。山形県は本願寺派が27カ寺と非常に少ないのですが、実家は門徒で、所属寺は私も大好きな詩人、茨木のり子の墓所として有名な浄禅寺です。「龍谷の龍子りゅうごです」と自己紹介しており、ご縁のある龍谷大学と宗派の寺院がともに活性化している道を模索していきたいと思っています。